

巡回健診用 オプション検査一覧

検査項目	検査対象	料金	
腫瘍マーカー	肺がん (CEA CYFRA ProGRP)	5,550 円	
	肝臓がん (AFP PIVKA-2)	2,980 円	
	膵臓、胆道がん (CA19-9 DUPAN-2)	2,670 円	
	前立腺がん：男性 (PSA)	2,050 円	
	卵巣、子宮がん：女性 (CA125 SCC)	2,670 円	
	消化器系セットマーカー (大腸・胃・胆道・膵臓・肝臓) (CEA AFP CA19-9)	3,600 円	
	★ 男性セットマーカーA (大腸・肺・胃・膵臓・胆道・肝臓・前立腺) (CEA AFP CA19-9 CYFRA PSA)	7,300 円	
	★ 男性セットマーカーB (男性セットマーカーA+食道) (CEA AFP CA19-9 CYFRA PSA +p53抗体)	9,250 円	
	★ 女性セットマーカーA (大腸・肺・胃・膵臓・胆道・肝臓・卵巣子宮) (CEA AFP CA19-9 CYFRA CA125)	7,300 円	
	★ 女性セットマーカーB (女性セットマーカーA+食道) (CEA AFP CA19-9 CYFRA CA125 +p53抗体)	9,250 円	
血液検査	心臓病検査	慢性心不全バイオマーカー (NT-ProBNP)	2,160 円
	胃の健康度検査	ペプシノーゲン	2,050 円
		ヘリコバクターピロリ抗体検査	1,540 円
		ABC検診 ★詳細は裏面を参照	4,320 円
	肝炎ウィルス検査	B + C型肝炎 (HBs抗原・HBs抗体・HCV抗体)	2,580 円
		B型肝炎 (HBs抗原・HBs抗体)	1,480 円
		C型肝炎 (HCV抗体)	2,020 円
	甲状腺機能検査		2,460 円



各オプション検査内容

◆腫瘍マーカー (がん反応)

腫瘍マーカーとは悪性腫瘍の際に上昇する血液中の成分で腫瘍の存在、種類、進行度の推定に役立ちますが、正常組織でも作られており、癌に特異的とは限りません。陽性＝がん ということでも無く、陰性＝がんで無いとも言えるものではありません。陽性であれば癌の疑いが有るので、「二次検査を受けた方が良い」と理解して下さい。

腫瘍マーカー	検査内容
CEA	消化器系の腫瘍を中心に用いられるが、広範囲の癌で上昇。大腸癌、肺癌、胃癌、胆道癌等で有用。常習喫煙者でも上昇。
AFP	肝細胞癌に特異性が高い。ウイルス肝炎、肝硬変でも陽性となるが、悪性化の経過観察に有用。妊娠後期でも上昇。
CA19-9	膵臓癌に特異性が高いが胆道癌にも有用。膵炎、胆石、卵巣のう腫等の良性疾患でも上昇。
CYFRA	肺癌 特に扁平上皮癌で上昇。良性の呼吸器疾患でも上昇。
PSA	臓器特異性が高く前立腺癌の早期発見に有用。前立腺肥大でも上昇。
CA125	卵巣癌、子宮体部癌に有用。子宮内膜症、卵巣のう腫等の良性疾患や妊娠でも上昇。
p53 抗体	主に癌細胞で起こっている癌抑制遺伝子 (p53) の異常に対して作られる抗体。食道癌、大腸癌、乳癌等で上昇。臓器特異性は低い。

◆NT-proBNP 検査 (慢性心不全の バイオマーカー)

心臓の筋肉の伸展刺激や内圧上昇といった心臓に負担がかかっている時に分泌されるホルモンです。疲れやすい、動悸、息切れ、むくみといった症状のある方や虚血性心疾患、弁膜症、心筋症、不整脈のほか、高血圧、糖尿病等による”隠れ心不全”の発見に有用なバイオマーカーです。

◆ペプシノーゲン

胃粘膜の萎縮の程度、胃酸分泌機能や胃粘膜の炎症の程度を調べます。

◆ヘリコバクター ピロリ抗体検査

抗体陽性者で、胃・十二指腸潰瘍の既往のある方は除菌によって再発を予防できます。また、除菌によって胃がんの発生が抑えられると考えられています。我が国の感染率は、年齢とともに高くなり 40 歳以上で 50～80% といわれています。

◆ABC 検診

ピロリ菌感染の有無を調べる「ヘリコバクター・ピロリ抗体検査」と胃炎の有無を調べる「ペプシノーゲン検査」を組み合わせ「胃潰瘍や胃がん等の胃の病気の危険度を A 群＝低リスク群（感染なし、胃炎なし） B 群＝中リスク群（感染あり、胃炎なし） C 群＝高リスク群（感染あり、胃炎あり）」に分類するものです。



一般財団法人

苫小牧保健センター